

大学所有の隠れた名コース

千刈カンツリー倶楽部

兵庫県 **H**

～名門から隠れた宝石まで～

第2回

一度は回りたい
“日本の聖地”100選

意外かもしれないが、英米では名門大学が持つ名コースは珍しくない。実は日本にも関西に一つ、大学所有の誇り高さ一流コースがある。

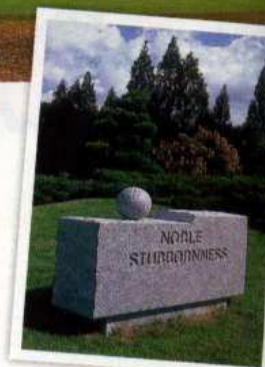
選・文/大塚和徳

英米の名門大学が立派なゴルフコースを持っているのは羨ましい。例えば英国では、ケンブリッジ大学のホームコースは「それぞれがベートーベンの9つの交響曲に譬えられる世界一の9ホール」と評され、米国では、東部のイエール大学がチャールズ・マクドナルド、西海岸のスタンフォード大学がジョージ・トーマス・ジュニアという名設計家たちによる傑作である。

だが日本にも、これに負けない名コースがある。関西学院大学が所有する「千刈CCC」だ。神戸市の水源地に隣に見下ろす風光明媚な三田市の山中にある美しいコースだが、関西のゴルフアール以外、知る人が少ないのは勿体



左ドッグレッグでやや打ち下ろしの12番パー5・グリーン。



敷地内にモットー「気品高く美しい精神」の英文が刻まれた記念碑がある。

グリーン周りの厳しいドライブ&ピッチと変化に富む。文句なしに一流コースである。

関西学院大学は1959年、自然教育目的でこの地を購入し、その活用手段にゴルフを選んだ。当時同窓会長だった天野利三郎を中心に建設を進め、開場したのが1965年。設計者のジョセフ・クレインは、神戸の英国人貿易商の父と日本人の母を持つクレイン3兄弟の末弟である。W・J・ロビンソンの鳴尾GA（鳴尾浜の競馬場跡地にあった）でゴルフを始め、その後同所に誕生した「鳴尾GC」に入会、以後天野との親交が続いた。だが土地を所有した鈴木商店が1927年

ない。ジョセフ・クレインによるクラシックな設計で、18ホールのバランスは素晴らしく、各ホールがバラエティに富んだ気品あるコースである。4つのパー3はすべて味わい深く、パー5にしても、美しく湾曲する5番、豪快な打ち下ろしの7番、そして最後を締める距離のある18番と、設計概念はそれぞれに異なっている。パー4も距離の十分なことから、戦略的なドッグレッグ、短くとも

に倒産。そこでコースが現在の猪名川に移る際、長兄ハリーが主導する新コースの設計・建設にジョセフも加わったのである。また、1931年初め、ヒュー・アリソンがこの猪名川コース改造の指示をした折にジョセフも参加し、現場で多くを学ぶことができた。現在、猪名川コースは世界のコースランキングに名を連ね、日本を代表するコースとなっている。千刈CCCの設計はこの約30年後で、この頃ジョセフは設計家に育っていた。

注目すべきは、日本で最初のティフトン芝の使用である。当時もエバーグリーンへの憧れは強く、米国での現地調査を行ない、鋭意この新種に決定。種子ではなく、発芽した芝を米国から空輸し、田植えのごとく一本ずつ植えていったという。コライ芝に比べ大幅な経費削減にもなった。ちなみにオーガスタ・ナショナルGCが、旧来のパーミュータ芝から改良されたティフトンへ変更したのもこの頃だ。

同大学はキリスト教系大学ゆえ、ハウスには礼拝堂がある。そして、「NOBLE STUBBORNNESS（気品高く美しい精神）」という英国詩人ジョン・ドライデンの言葉が大学体育会全体の標語であり、倶楽部のモットーにもなっている。



題字・イラスト/小寺茂樹

●コース所在地
兵庫県三田市山田大道ヶ平605
☎079-564-2282
URL : <http://www.sengaricc.com>

おつかかずのり/ゴルフ史家。1934年生まれ。東京大学経済学部卒、米国でMBA取得。英ターンベリーホテルの経営、ジ・オックスフォードシャーGCの建設に携わる。海外で回ったコース350以上、米ゴルフマガジン誌「世界ベスト100コース」の選定パネリスト。英ロイヤル・ノースデボンGC、英ロイヤル・セント・デイビッドスGC会員。著書に「ゴルフ千年—タイガー・ウッズまで」（中公新書ラクレ）、「世界ゴルフ見聞録」（日本経済新聞出版社）など。